

知っていてももらいたい
お産のこと、育児のこと、
産科・小児科のこと

コウノドリ (© 鈴木ユウ / 講談社)

“TSUNAGU”

[つなぐ]

未来へつなぐ、未来とつながる

地域で支える出産・子育て環境



松本大北地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会

<https://osan-anshin.net/>

「TSUNAGU」

[つなぐ]

つなぐ未来へ つなぐ未来と つながる

守っていかねばならない 大切なものがあります

近年、全国的に産婦人科・小児科の医療環境は、医師や助産師の不足、分娩を扱う医療機関の減少など、様々な面で厳しさが増しています。

松本・大北地域
でも・・・

お産をとりまく厳しい現状

救急搬送や婦人科手術にも対応している分娩医療機関に負担が集中し、産婦人科医は過重労働を強いられています。このままでは、限界を超えた医療機関が診療を取りやめ、お産も、産婦人科の手術や救急搬送も、松本地域では受け入れ不可能になる恐れがあるのです。

この地域で暮らす人は当然のこと、里帰り出産を希望する人も含め、全ての方が安心してお産ができる環境と、命に関わる事態への医療提供体制は、守っていかねばならない大切なものなのです。

松本・大北地域
では・・・

産科医療環境の向上を目指して

松本地域（松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村）では、産科医療体制の崩壊をくい止める緊急避難措置として、平成20年に「松本地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会」が設立されました。産科医師の負担軽減と離職防止、そしてなりより妊産婦への医療サービスの向上を図るシステムの構築を地域として取り組み始めたのです。

令和3年度からは、大北地域（大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村）が加わり、「松本大北地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会」と名称を改め、より広域的に事業に取り組んでおります。

もくじ

守っていかねばならない大切なもの	02	松本・大北地域の出産システム	14
「お産のこと、産婦人科医・小児科医のこと」知っていますか？	04	妊婦さんの情報をつなぐ共通診療ノート	16
産婦人科医のやりがい	06	松本・大北地域の産科医療機関リスト	18
新生児に対応する小児科医と看護師	08	Webサイトもご活用ください	19
助産師は心づよいサポーター	10	松本大北地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会について	20
産婦人科医の現状を知る	12		



いのちをつなぐ、プロフェッショナル

みなさんは、
「お産のこと、
産婦人科医・小児科医のこと」
どのくらい知っていますか？



安産には、妊娠前からの 体作りと心作りが大切です

母児ともに元気に出産を迎えるための準備は、妊娠してから急にできるものではありません。お母さん自身で行うことが必要です。安産には妊娠前から、いえ結婚前から、いえ子供の頃からの体作りと心作りが大切なのです。そのためには、お産をよく知っておくことも重要ですし、お母さんのご両親、パートナー、医療従事者も含めた周囲の人々からの支えも必要となります。

しかしながら、現実の妊娠・お産では、安産のための準備をしていたとしても、母体や胎児の状態が急変することもあります。そのような時は、お産や赤ちゃんの専門家である産婦人科医、小児科医、助産師などが全力で支援を行うのです。

一方で、最善の医療を提供できる体制は、医療従事者はもちろんのこと、地域全体で作っていかねばならない時代になっていることも知っておきましょう。

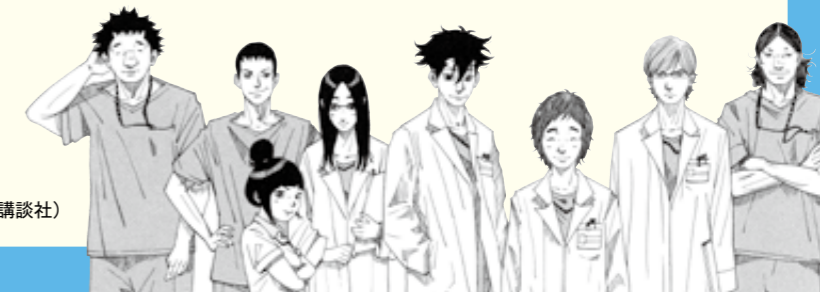


産婦人科医と小児科医とは

一般に、妊娠・出産、母体と出産直後の赤ちゃんの健康管理までを行うのが「産婦人科医」、新生児からの管理が「小児科医」の役割となります。また、特定の病院にあるNICU（新生児特定集中治療室）では、リスクを抱えて生まれた赤ちゃんに対応する「新生児科医（新生児専門医）」も活躍しています。

妊婦さんと生まれてくる赤ちゃんの いのちをつなぐ存在です

産婦人科医は、妊娠から出産までの期間、母体と赤ちゃんの健康状態を診断し、投薬や処置が必要と判断した場合には外来あるいは入院で診療を行います。また分娩時に母体や赤ちゃんの状態が急変した場合、緊急の帝王切開や分娩介助を行い、生まれてきた赤ちゃんに治療が必要な場合は小児科医が対応します。つまり、産婦人科医と小児科医は、総合的に妊婦さんと関わり、大切ないのちの誕生を常にサポートしている存在なのです。





産婦人科医に聞きました 産婦人科の医師としてやりがいを感じていることは？

松本・大北地域の産婦人科医たちは、一人ひとりの妊婦さんの健康とおなかの中の赤ちゃんが無事生まれてくることへ強い使命を持ち、いきいきと活動しています。産婦人科医たちは、「どんな気持ちで医療に携わり、どんなことにやりがいを持っているのか？」お話を伺いました。



コウノドリ (© 鈴ノ木ユウ/講談社)



Interview
お母さんと赤ちゃんが
無事退院していく姿に
喜びを感じます

相澤病院 医師
塩原 茂樹 さん

妊娠やお産は「病気ではない」という言葉がありますが、まずは正常範囲での出産を目指すこと、一方で逸脱した際の適切な介入をためらわないこと、これが私たち医師の使命だと考えています。一人ひとりの妊婦さんの健診の状態から出産時の「予兆」を正確に捉え、私たち医師も万全な準備で出産に立ち会う。無事に生まれた赤ちゃんを初めて抱き、がんばったお母さんの姿や、元気に退院していく母子とご家族に「おめでとうございます」といえる時に、この仕事の達成感、そして、なにより大きな喜びを感じていますね。



Interview
医師としての
原動力にもなる
出産に携わるといふこと

穂高病院 医師
古川 哲平 さん

赤ちゃんが元気な産声をあげた瞬間、それまで緊張で張りつめていた分娩室が一瞬で幸せな雰囲気に包まれます。赤ちゃんにはそんな力があります。そしてその場面に立ち会えることが、私にとって医師を続ける「大きな力」にもなっています。ほかにも、産婦人科医として婦人科治療など女性の一生のヘルスケアに幅広く関わりサポートできることにもやりがいを感じています。また、ここ松本地域は、医療機関同士が連携し合い円滑な出産システムが構築されている地域。妊婦さんにも、医師にとっても良い環境ですね。

私たちの病院では年間700~800件の出産を担当していますが、産婦人科医は、いつ始まるかわからないお産に対応するため、時間が不規則になるのも確かです。しかし、けがれなく何ものにも代えがたいかわいらしい赤ちゃんの誕生を見るたびに、いのちの大切さを実感でき、感動を味わうことのできる仕事です。赤ちゃん、お母さん、立ち会われたお父さんと一緒に、幸せに満ち溢れた時間を共有できるのも産婦人科医の大きな魅力のひとつと考えて良いのではないのでしょうか。

Interview
いのちと向き合い、
いのちを実感する
やりがいのある仕事

丸の内病院 医師
北村 文明 さん



医師として、出産には万全の体制で対応しますが「元気で生まれてきて」と祈る思いでいることも確かですね。無事生まれ、ご家族から感謝の言葉をいただくことも多くありますが、私自身もこの幸せ溢れる出産という特別な場面に医師として立ち会えたことに感謝でいっぱいです。涙を流す方、安心される方、出産を終えるとご家族それぞれに表現のカタチは違いますが、この感動と幸せをより多くの妊婦さんが迎えられる様、心に寄り添った出産をサポートしていきたいと考えています。

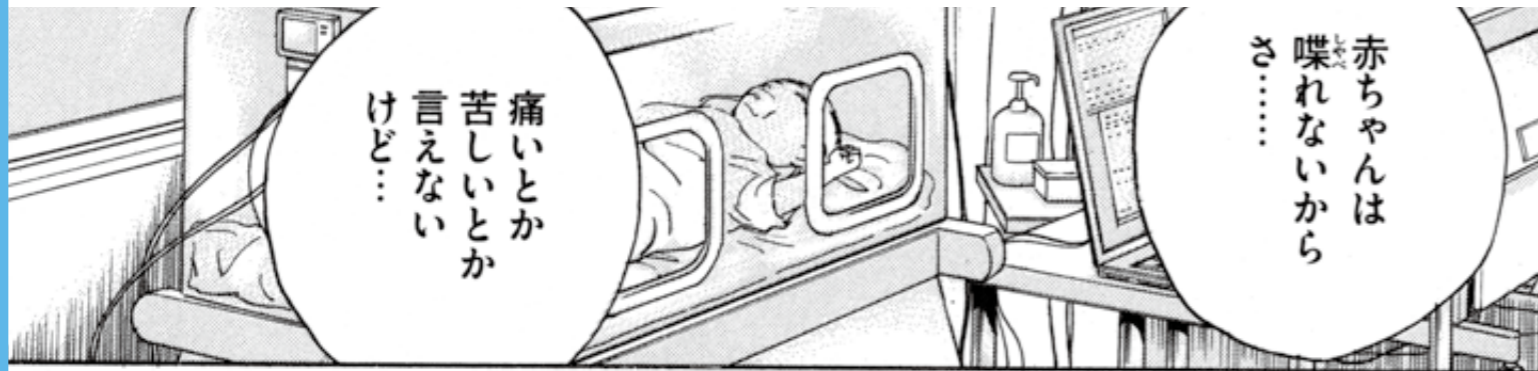
Interview
ご家族それぞれに
感動のカタチがある
出産に出会える喜び



横西産婦人科 医師
横西 哲 さん



未来へのいのちをつなぐために、 新生児に対応する小児科医と看護師



医療を必要とする赤ちゃんのために

早期に産まれたり、呼吸のサポートや何らかの治療を必要とする赤ちゃんのために、産婦人科医と連携して「小さいいのち」を守る活動をしている小児科医(新生児科医)や看護師たちがいます。

周産期母子医療センターやNICUは、 高度な医療を提供する専門施設

生まれてくる赤ちゃんの約90%は特別な医療を必要としませんが、約10%の赤ちゃんには医療の提供が必要です。妊娠中や分娩時における、母体や胎児のリスクが高いと判断された場合や、新生児に高度な医療を提供する必要がある場合などは、産科と新生児科の両方の機能を持つ【周産期母子医療センター】や赤ちゃんのための集中治療室【NICU】で管理します。24時間体制で周産期医療を行うための専門知識や技術を持った医師、看護師たちが総力を注いで活動しています。松本・大北地域では、長野県立こども病院と信州大学医学部附属病院がその役割を担っています。



実習で訪れたNICU(新生児特定集中治療室)で勤務する看護師の方から「家族のはじまりに関わる場所だよ」と伺ったことが入職するきっかけになりました。重篤な赤ちゃんが多いNICUの勤務は戸惑うこともありましたが、ご家族と私たち看護師が赤ちゃんと一緒に関わり、家族の絆が深まっていく様子や、喜ぶ姿を見たときに、看護師としてとてもやりがいのある職場だと実感しました。これからも「家族のはじまり」に関わるということを大切に活動していこうと思います。



Interview 新生児医療現場の中で 知った大切なこと

長野県立こども病院
NICU 看護師
小林 佳奈 さん

Interview 大切な人生の スタートを手助けできる という魅力



信州大学医学部附属病院 医師
三代澤 幸秀 さん

私は小児科の新生児部門を担当しています。私たちの役割はNICUで人生のスタートをサポートすることと、退院後の発育・発達をしっかりと見守っていくことです。新生児医療は責任が重く、ハードな仕事ですが、その分大きな喜びがあります。赤ちゃんが驚くほどの生命力で厳しい状態から回復したときや、小さかった赤ちゃんが大きく成長した姿を見るときには、新生児医療に関わってきてよかったと心から思えます。大変ですが、魅力的な仕事だと思いますよ。



コウノドリ (©鈴木ユウノ/講談社)



助産師がいなければお産は成り立たない、心づよいサポーター

お産に欠かすことができない助産師も、その幅広い役割はまだまだ一般の方に知られていないのが現状です。

妊婦さんの健診から、分娩の介助、産後のおっぱいの指導、さらにはお母さんと赤ちゃんの健康相談などの他、妊娠前からの保健指導や性教育なども行って、出産を経験する女性にとって身近で重要な存在なのです。



助産師とは

助産師は看護師免許と助産師免許の2つの資格を持ち、医師が不在でも、助産行為(正常な分娩を自らの判断で扱う行為)が可能です。

メンタル面でも妊婦さんを支える助産師

妊娠・出産を経験した多くの女性から聞かれる助産師への感謝の言葉。特に初めて出産を経験する女性は、何かしらの不安を抱えるもの。そんな時に助産師が行う体調管理のアドバイスや育児に関するカウンセリングは、とても心づよいといいます。



Interview

妊婦さんと赤ちゃん、2つの“いのち”に関わるという大きな魅力

松本市立病院 助産師
岩瀬 明 さん

不安を抱える妊婦さんに寄り添い、一緒になって頑張り、無事出産を終えた時にお互い達成感を共有できることや、出産を担当した妊婦さんに、「次もお願いしたい」と言われた時などは、本当にうれしいですね。私もさらにケア能力や技術力を磨いていこうとやる気が満ちてきます。妊婦さんと赤ちゃん、2つの大切ないのちに関わることは、責任も大きいですが、妊婦さんやご家族から「ありがとう」と感謝の言葉をいただいた時には、改めて助産師という仕事に魅力を感じますね。



Interview

妊婦さんの立場を考え、安心してお産をしていただけるように

丸の内病院 助産師
荒井 愛佳 さん

妊婦さん一人ひとりが「満足できるお産」をしていただくことが、私たち助産師の喜び。また、出産後も私たちは様々なサポートをさせていただきますが、そのひとつが授乳です。生まれてから約1週間の中で変化する母乳分泌と赤ちゃんに合わせて、お母さんと赤ちゃんにとって一番良い授乳の方法を一緒に考えて退院を迎えられた時は本当にうれしく思います。赤ちゃんのご家族の強い絆を身近に感じる事のできる助産師はとてもやりがいのある職業です。

Interview

満足できるお産のためにサポートできる喜び

相澤病院 助産師
岡村 明奈 さん



助産師になり2年目。赤ちゃんが元気に産声を上げ、お母さんやご家族が感動の涙を流されている場面に立ち会えることに私も幸せを感じる毎日です。また、自分が担当した妊婦さんが赤ちゃんの1ヶ月健診の時にわざわざ訪ねてくれたり、街なかで私を見つけて声をかけていただき、赤ちゃんの成長も見れた時など、皆さんの幸せな姿を見るたびに、幼い時からの夢であった助産師になって本当に良かったと感じています。今後もそれぞれの立場に寄り添った助産師として活動していきたいです。

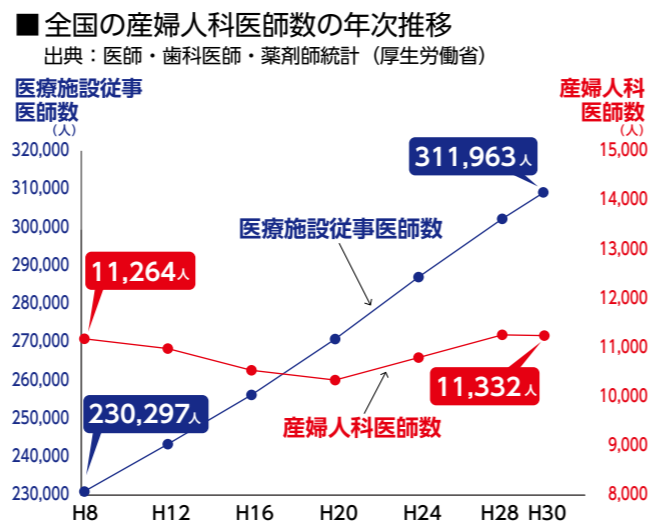
産婦人科医の現状を知る

全国的に産婦人科医不足は、非常に深刻な状態です。一部の地域では住民がお産する場所がなかったり、里帰り出産ができないといった事態もおこっています。

現状の医師の年齢層やその数、男女構成比などからみると、今後将来的にますます深刻な状態になっていく可能性も高く、長野県も例外ではありません。

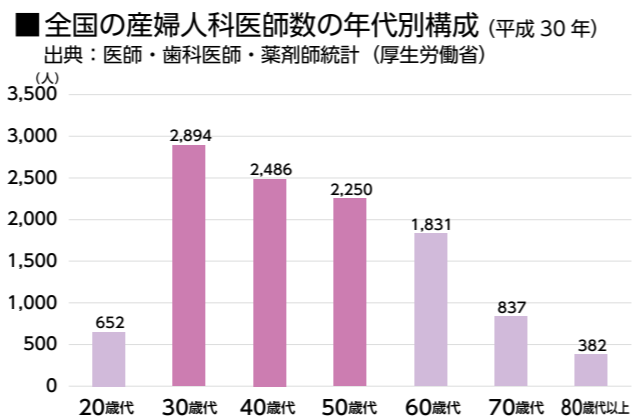
産婦人科医師数は、減少後、微増

医師全体の数は毎年増加しているのに、産婦人科の医師数は減少後、微増している状況です。慢性的な不足状態は、さらに医師を減少させる悪循環の原因となっています。



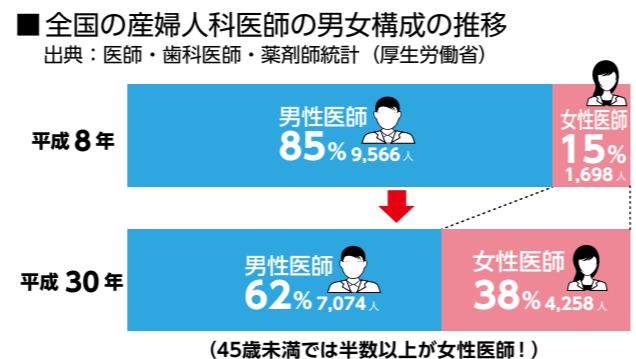
医師の高年齢化も進む産婦人科医の現状

年代別に見ても30歳代～60歳代が多く、それに比べて20歳代が極端に少ないのが現状です。このことから産婦人科医を希望する医師が少ないことが分かり、この先高齢化が進むことも示しています。



女性の活躍が増える医療現場

ここ10年で、産婦人科医の女性比率は大きく増加し、全体では約1/3ですが45歳未満では半数以上が女性です。女性医師の活躍は妊婦さんにとって同性という利点は多くありますが、産休や育児でフルタイム勤務ができない際の男性医師によるバックアップが難しくなっています。



長野県においても

長野県の現状だけみても、医師が過剰労働を強いられることなく、円滑にお産を行う環境をつくるには、フルタイムでお産に対応できる医師が、現状の2倍ぐらいに増えないと解決しないといわれています。

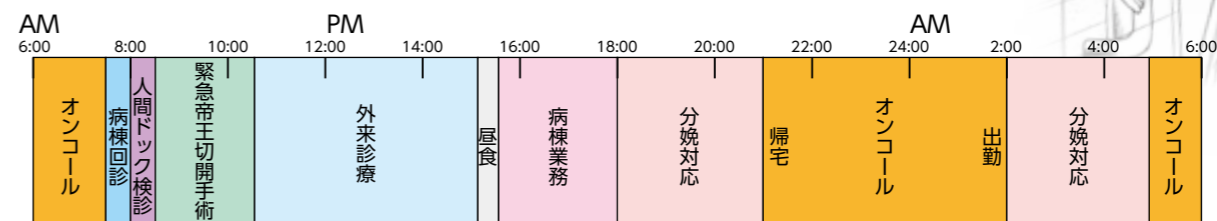
過密な産婦人科医の勤務状況

絶対的な産婦人科医の減少により、過密なスケジュールを強いられる医師も少なくありません。松本地域では、健診と分娩を医療機関で役割分担するシステムを運用していますが、それでも医師一人の負担はまだ大きい状況です。医師たちは地域の人たちに安心して出産してもらうために日々奮闘しています。

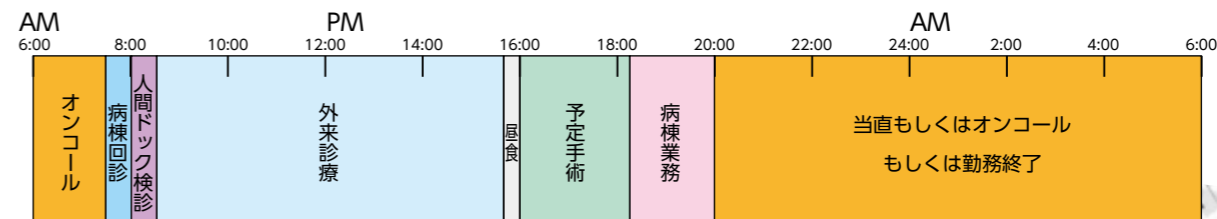
ある産婦人科医の勤務スケジュールの一例

(健診と分娩の両方を行う医療機関 男性38歳の場合)

●ある月曜日



●翌火曜日



緊急出産への対応状況

医師たちは、勤務時間外でも、緊急の出産や救急搬送などで呼ばれるため、いつでも対応できるように当番制で待機しています。このことを「オンコール」といいます。患者さんや妊婦さんの状態によって、医療現場への指示で対応する場合と、医師が駆けつけて直接対応に当たる場合とがあります。緊急時に最善の対応ができるように医療機関も体制を整えています。



コウノドリ (© 鈴木木ユウ/講談社)

松本・大北地域の 出産システム

松本・大北地域で分娩されるすべての妊婦さんと、産婦人科の救急治療を要するすべての患者さんに対して、安定した医療を提供できるように、分娩医療機関(お産ができる医療機関)と健診協力医療機関(健診のみを行う医療機関)にそれぞれ役割分担を決め、連携を図っています。

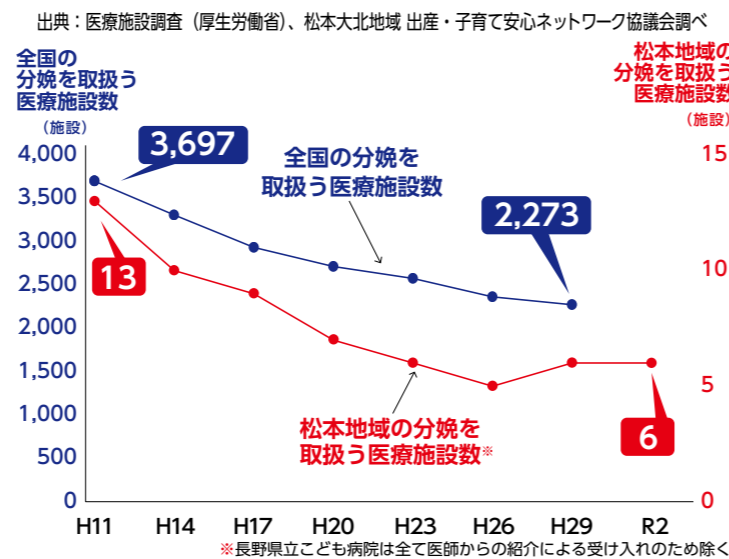


地域全体で
「お産を守る」
誇るべきシステムです

信州大学医学部
保健学科
金井 誠さん

松本地域では、平成11年から20年にかけて、お産できる施設数が半分程に減り、産科医療が崩壊寸前となる状況が起こりました。そこで松本地域の医師会、行政、医療機関が「お産できる環境を守ろう」と団結して、「共通診療ノート」を利用した新たな産科医療システムを構築しました。これにより、分娩から婦人科手術まで幅広く受け入れる医療機関の負担を減らすことができ、お産の受け入れ数を維持することが可能になりました。もし、従来の体制のままでも対応していたら、里帰り出産を制限せざるを得ない状況になっていたと考えられます。新システムの導入時は、妊婦さんたちの不安の増大や混乱を心配しましたが、「共通診療ノート」の存在は、お母さんと赤ちゃんの診療情報を医療機関同士で円滑に共有できるようになり、単独施設で管理していても、救急対応も含めて問題なく産科医療の提供を行えることが検証できました。全国の多くの地域で出産環境が危機的な状況に陥る中で、松本地域では医療崩壊前にこのシステムを構築できました。地域一体となって出産環境を守ったと言っても過言ではありません。

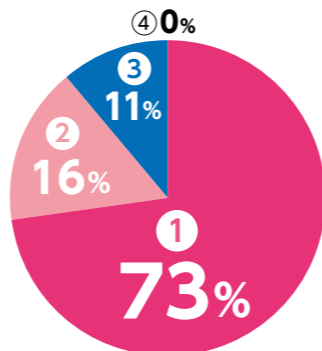
■分娩を取扱う医療施設数の推移



■共通診療ノートを利用した体制についてのアンケート結果 H28年施行アンケート回答妊産婦(239人)

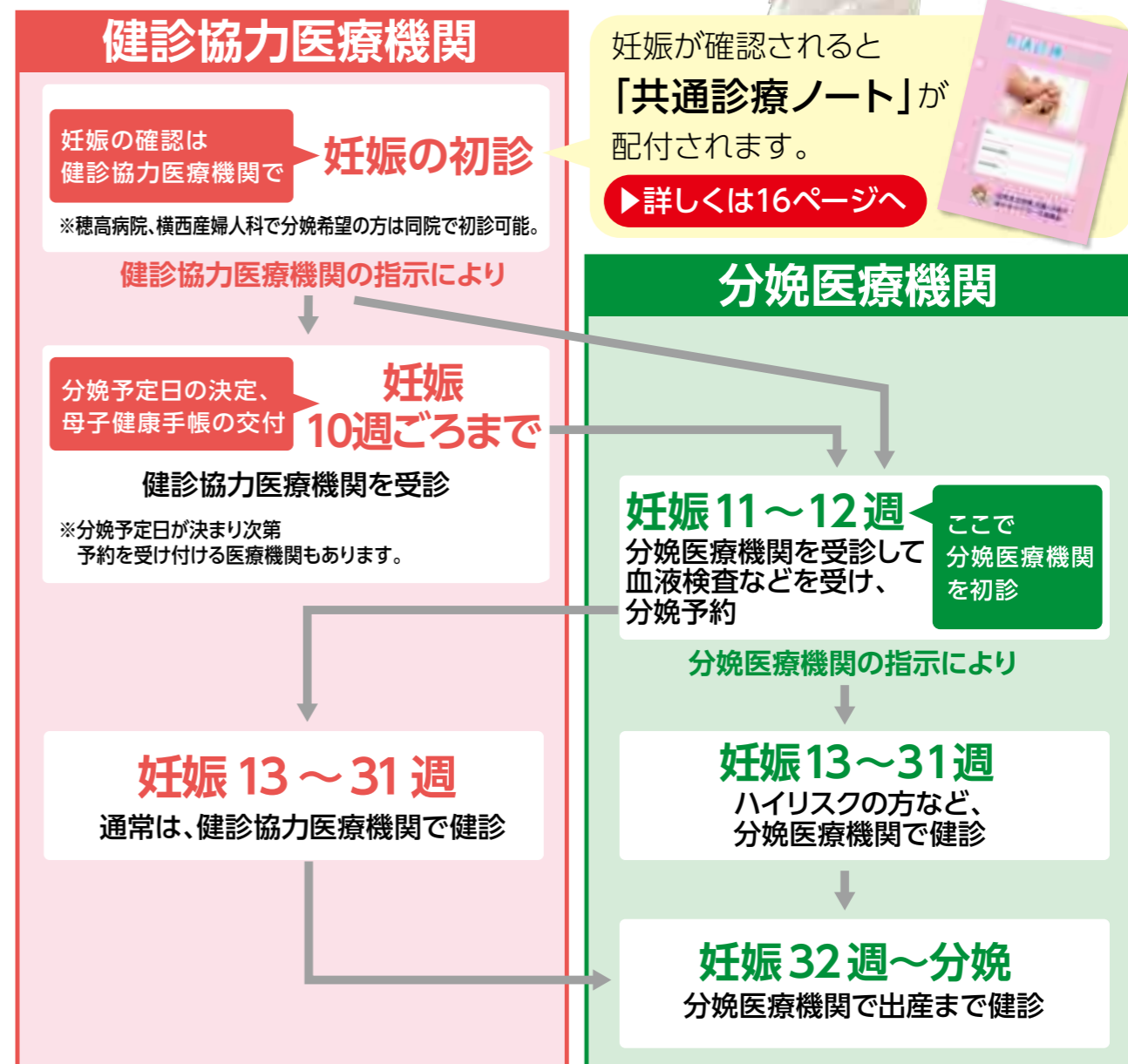
89% が継続を希望

- 1 産科医が増えた後も、同様に続けてほしい
- 2 産科医が増えた後は、変更して続けてほしい
- 3 産科医が増えた後は、従来の体制に戻すべき
- 4 現時点でやめるべき



分娩までの受診の仕方

健診協力医療機関と分娩医療機関で役割分担をしています。妊娠の確認をする場合は、健診協力医療機関を受診してください。分娩までの受診の流れは下の表を参考にしてください。



●産婦人科医が判断したハイリスク妊婦さんは、病状に応じて産婦人科医が指示しますので、この限りではありません。また医療機関の状況により変更も想定されますので、詳しくは各医療機関にお問合わせください。

●里帰り出産などを希望される方は、医療機関へ直接お問い合わせください。

妊婦さんの情報をつなぐ 共通診療ノート

「共通診療ノート」って？



共通診療ノートは、松本・大北地域で妊娠が確認された妊婦さんに配付されるノートです。

健診協力医療機関と分娩医療機関で役割分担している松本・大北地域において、医療機関の間での情報共有や、妊娠中の皆さんが不安なく妊娠期間を過ごしていただくために必要な情報が記載されています。

予約外の場合も含め、受診の際は必ずお持ちください。

また、松本・大北地域以外で里帰り出産する場合にも分娩予定の医療機関にご持参いただくと、担当医師が妊娠の経過を把握することに役立ちます。

さらに、おなかの中の赤ちゃんのエコー写真を貼るスペースもあるのでメモリアルブックとして保管できるものになります。

配付時期と場所：初診時に、妊娠を確認した医療機関で配付されます。



共通診療ノートの内容

P2~3 基本情報記入欄

P4~5 緊急ガイド

P6~7 医療機関受診ガイド

P8 松本大北地域 出産・子育て安心ネットワークについて

P9~27 記録記入欄

9 ページ 胎嚢(たいのう)チェック
10 ページ 頭殿長チェック
11~27 ページ 妊婦健診記録

P28~29 医療機関リスト

P30~35 産婦人科マップ

P36 松本・大北地域 出産・子育て安心情報 web サイトの紹介

Interview

安心してお産に
臨んでいただける
松本地域の出産システム



松本市立病院 医師
横井 由里子 さん

医師の負担軽減ばかりか、現在の出産数を維持できる松本地域の出産システム。産婦人科は、文字通り出産から婦人科の対応までおこなうので現状の医師数では、絶対必要だと考えています。現在は、このシステムが順調に運用できていますが、今後産婦人科医を希望される医師が増えることで妊婦さんたちにも産む場所の選択肢が増えることが望ましいと思っています。産科は、入院しても「おめでとう」と言える場所。幸せなこの環境に携われる本当に魅力的な職業だと感じています。

大学の先生から松本地域の周産期医療システムについてお話を伺った時、このシステムがもっと全国的にも広がれば良いと思ったのが率直な感想です。地域の医療機関が一体となり、出産環境を守っていることは、とても素敵なことだと思いました。現在、医療を学ぶ中で、将来どの科を専攻するかは決まっていますが、実習や講義を通じて、産婦人科にはとても魅力を感じています。また、医療に携わるものとして気軽に相談してもらえる存在になればいいと思っています。

Interview

産婦人科にとっても魅力を感じています



信州大学医学部医学科
学生
須賀 弓加 さん

初めての妊娠の時に発覚した病気のことや状況が細かく書かれている共通診療ノートの存在は、私にとって、とても安心できるものでした。また、このノートには、健診時に撮った赤ちゃんのエコー写真も貼ることができるので、主人や家族に順調に育っている赤ちゃんの経過をすぐに見せることができたのも良かったですね。ほかに、産婦人科の診療機関の地図もついていたので、ちょっと調子が良くなかった時などは、活用させていただきました。

Interview

学んだ環境である
信州松本で
助産師として活躍したい



信州大学医学部保健学科
学生
本田 とも さん

助産師を目指し、ここで学ぶ中で知った地域独自の共通診療ノートを活用する出産システムは、医師が不足する現状で妊婦さんと医療者とのコミュニケーションが図りやすく、とても良い効果的な取り組みだと感じています。また、この地域の医療環境や実習で担当した妊婦さんたちとの関わりや体験から、この美しい自然環境の魅力をもつ信州松本という地域で活躍できる助産師を目指して頑張りたいと思います。

Interview

様々な活用度の高い
共通診療ノートの
存在



松本市で出産を経験された
南 和佳奈 さん

松本・大北地域の 産科医療機関リスト

2021年10月現在

●分娩医療機関

名称	住所	電話番号
信州大学医学部附属病院	松本市旭3丁目1-1	0263-35-4600
松本市立病院	松本市波田 4417-180	0263-92-3027
相澤病院	松本市本庄 2-5-1	0263-33-8600
丸の内病院	松本市渚 1-7-45	0263-28-3003
横西産婦人科	松本市島立 2992-1	0263-31-5760
穂高病院	安曇野市穂高 4634	0263-82-2474

※穂高病院、横西産婦人科で分娩希望の方は、妊娠の初診から受診可能です。

●健診協力医療機関

名称	住所	電話番号
上條産婦人科医院	松本市城東 1-6-3	0263-32-0441
北原レディースクリニック	松本市島立 1081-1	0263-48-3186
まつもと医療センター	松本市村井町南 2-20-30	0263-58-4567
小谷ウィメンズクリニック	松本市大手 2-3-20	0263-39-1122
南天診療所	松本市筑摩 3-15-31	0263-29-1515
ほりうちレディースクリニック	松本市筑摩 1-16-3	0263-87-6316
ゆり産婦人科医院	松本市寿南 1-23-4	0263-85-0555
吉野産婦人科医院	松本市女鳥羽 1-7-6	0263-32-2965
わかばレディス&マタニティクリニック	松本市浅間温泉 1-24-5	0263-45-0103
桔梗ヶ原病院	塩尻市宗賀 1295	0263-54-0012
ひろおかさくらレディースウィメンズクリニック	塩尻市広丘吉田 3191	0263-85-0013
はぎわら医院	安曇野市豊科高家 4915	0263-87-1125
あづみ野レディースクリニック	安曇野市豊科 4198-3	0263-71-2666
白木医院	安曇野市三郷明盛 1610-1	0263-77-2134
安曇野赤十字病院	安曇野市豊科 5685	0263-72-3170

※穂高病院、横西産婦人科で分娩希望の方は、妊娠の初診から受診可能です。

Webサイトもご活用ください

松本 お産安心 検索
osan-anshin.net

本サイトは妊婦さんはもちろん、これからママさん
パパさんになる方、子育て中の方など、松本・大北
地域の多くの皆さんに、出産・子育ての安心情報を
提供するサイトとして開設しました。
特に、松本・大北地域の「お産」に関する情報を詳し
く掲載しています。
また、「共通診療ノート」とあわせてご利用いただけ
るように作成しています。ぜひ、ご活用ください。



スマートフォンにも
対応しています！！



松本・大北地域の出産ガイド

- 松本・大北地域の出産
- 緊急時の対応
- 共通診療ノート
- 産科医療機関
- 妊娠・出産後の手続き
- 助産所について

出産・子育てワンストップ情報

- 出産・子育てキーワード
- 出産・子育てQ&A

医療情報

- 緊急医療情報
- お子さんが急病になったときの対応
- 小児科ドクターのQ&A
- 松本市立病院スタッフコラム
- 小児科医院リスト

出産・子育てお役立ち情報

- 出産子育てポータルサイトなど
- 妊娠・出産
- 子どもの健康・医療
- 子育て支援サービス情報
- 仕事と子育て

協議会について

- 会長あいさつ
- 松本・大北地域の出産システムについて
- 設立の経緯
- 構成団体名簿
- 規約

動画で見れます！

▶▶▶ Webサイトでは、このパンフレットの内容が動画でご覧になれます。



松本大北地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会について

病院産科医師の負担軽減と離職防止を目的に、松本医療圏の3市5村、医療機関並び医療団体により、平成20年5月に「松本地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会」を設立しました。設立当時、産科を担当する病院医師の不足により、全国的に産科病院の休廃止が相次ぐ危機的状況にありました。本協議会は産科医療体制の崩壊をくい止める緊急避難措置として、分娩医療機関と健診医療機関における役割分担の明確化や連携体制の構築などの事業に取り組んできています。令和3年度からは大北地域の5市町村及び関係機関が加わり、「松本大北地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会」と名称を改め、より広域的に事業に取り組んでおります。



松本大北地域 出産・子育て安心ネットワーク協議会

事務局

長野県松本保健福祉事務所総務課

TEL.0263-40-1937 FAX.0263-47-9293

松本市健康福祉部福祉政策課

TEL.0263-34-3262 FAX.0263-34-3204

構成

松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村、大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村、松本広域連合、北アルプス広域連合、松本市医師会、塩筑医師会、安曇野市医師会、大北医師会、信州大学医学部附属病院、長野県立こども病院、松本市産婦人科医会、松本市小児科医会、長野県助産師会中信地区（松塩筑、安曇野、大北）、松本市保健所、長野県松本保健福祉事務所、長野県大町保健福祉事務所



コウノドリについて

年間約100万人の新しい命が誕生する医療現場の人間ドラマ、漫画「コウノドリ」は、約7年間、週刊『モーニング』（講談社）で連載され、2015年、2017年にはテレビドラマ化されました。